最近の本学の取組等について
2025.1　～　2025.3

活動報告

１．寄附者への紺綬褒章伝達式

2025 年 1 月 28 日（火）、学長室にてライトアップコンサルティング株式会社 代表取締役 西岡　昭彦氏への紺綬褒章伝達式を執り行いました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄附した方を対象とするもので、西岡氏には、本学のアントレプレナー教育に共感いただき、学生がベンチャー活動において更なる挑戦を続けられるよう支援したいとのご意向から、名工大発ベンチャー応援基金へ寄附を賜りました。

小畑学長は西岡氏に紺綬褒章と章記を伝達するとともに、ご寄附が本学の学生たちにとって大きな励みとなり、今後のベンチャー活動の発展に寄与することを期待していると感謝の言葉を述べました。

小畑学長（左）、西岡代表取締役（右）

２．寄附者への感謝状贈呈

2025 年 1 月 23 日（木）に学長室にて、多額のご寄附に対する感謝の意を表し小畑誠学長から株式会社 CMC 総合研究所 代表取締役 元島　栖二様へ感謝状を贈呈しました。

寄附者の元島様は本学の卒業生であり、本学の研究活動がさらに発展するようにとの思いで複数年にわたって多額の寄附を賜りました。

当日は小畑学長のほか、吉田 江依子副学長（共通教育改革，ダイバーシティ推進担当）、河邊 伸二学長特別補佐、宮川 勉副理事・事務局長が出席し、小畑学長から感謝の意を表し、感謝状を手渡しました。

小畑学長（手前左）、寄附者の元島様（手前右）

３．（ARTFULL CAMPUS）2025 名古屋工業大学賞授与式

アートフルキャンパスの一環として、愛知県立芸術大学の卒業・修了作品の中から名古屋工業大学賞授与作品を選定し、2025 年 3 月 10 日に本学で授与式を執り行いました。

2025 年は、愛知県立芸術大学の大藤みくのさん（美術学部油画専攻 4 年）、福島七海さん（大学院美術研究科（博士前期課程）日本画領域２年）及び近藤寛喜さん（美術学部油画専攻 4 年）が選ばれ、受賞作品は 2025 年度に学内で展示されます。

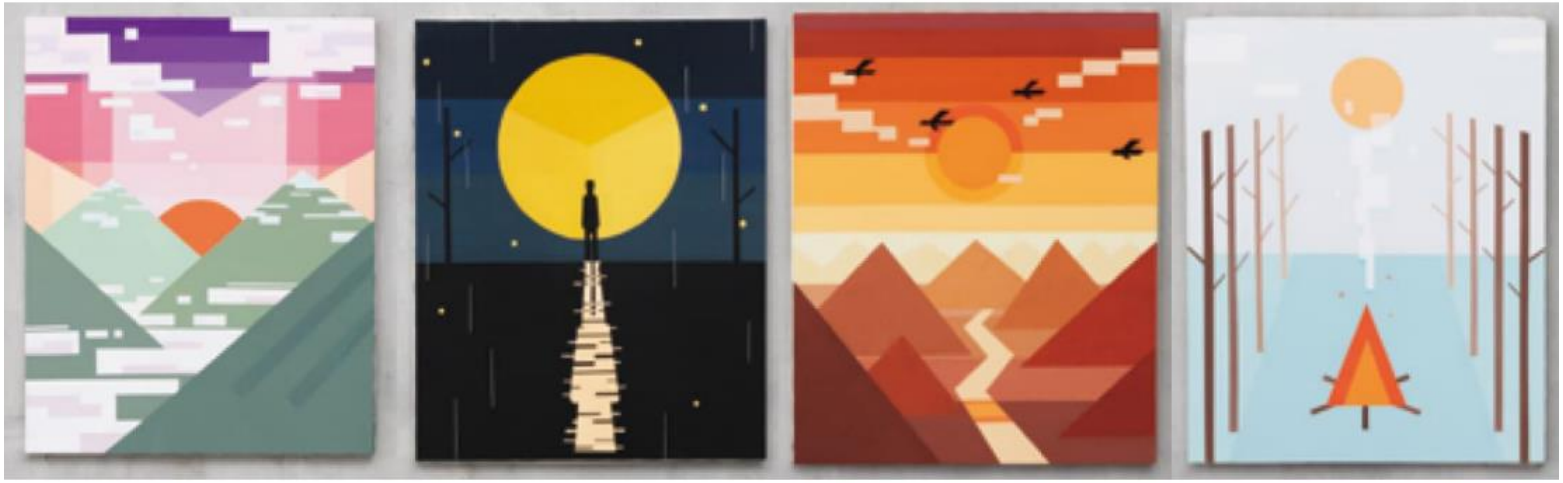
授与式には受賞者 3 名の他、愛知県立芸術大学の白河宗利学長、倉地久副学長、本学の小畑誠学長及び両大学のアートフルキャンパスに携わる教職員が出席しました。

（参考）名古屋工業大学と愛知県立芸術大学の両大学は、「アートフルキャンパス」を共創し、2021 年度から芸術がもたらすキャンパスライフクオリティー向上に係る効果検証事業を共同しています。2022 年 4 月 1 日には包括的連携に関する協定書を締結し、連携を拡大させています。

関連リンク：アートフルキャンパス HP

白河愛知県立芸術大学学長（左端）、小畑学長（右端）

受賞作品 NO.1　**mAkurano 草 sI**



作者　大藤 みくの （美術学部４年）
OFUJI Mikuno

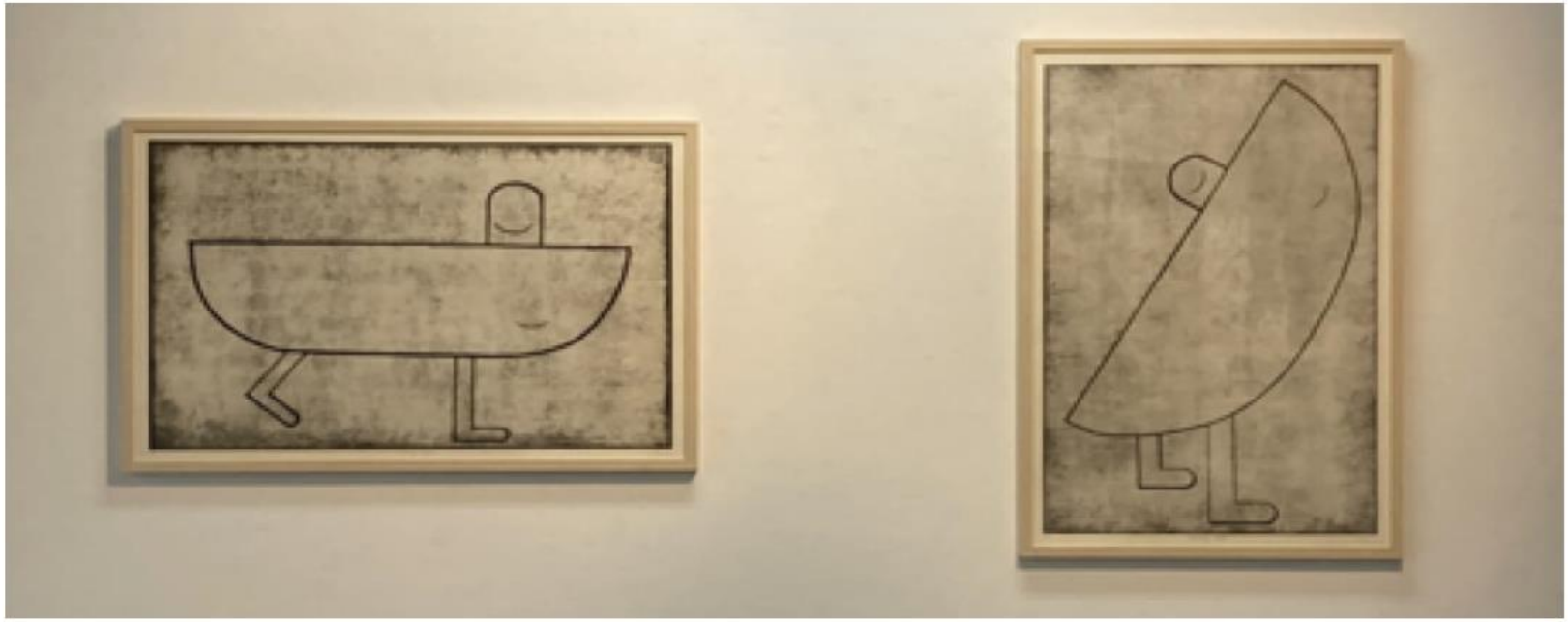
油画　キャンパス、アクリル絵具　H2100 × W1950 mm

受賞作品 NO.2　**水の星**

作者　福島 七海 （美術学部４年）
FUKUSHIMA Nanami

日本画　麻紙、岩絵具　H1750 × W3000 mm

受賞作品 NO.3　**舟**



作者　近藤 寛喜 （美術学部４年）
KONDO Hiroki

油画　紙、インク　H940 × W740 mm、H900 × W600 mm
H600 × W900 mm、H700 × W500 mm × 3点

活動予定

１．２０２４年度学位記授与式、２０２５年度入学式

学部、大学院の２部制にて開催し、式典の様子は、YouTube にてリアルタイム配信を行います（後日閲覧可能）。

・2024 年度学位記授与式
日時：2025 年 3 月 26 日（水）学部　10：30～11：40、大学院　13：00～14：05　場所：岡谷鋼機名古屋公会堂

・2025 年度入学式
日時：2025 年 4 月 6 日（日）　大学院　10：30～11：00、学部　12：30～13：00　場所：岡谷鋼機名古屋公会堂

２．第９回名工大音楽プロジェクトコンサート　～名古屋に音楽の火が灯った日～

名工大音楽プロジェクト第９回コンサートでは、名工大から歩いて 15 分、新栄にあった小池レコードさんをフィーチャーします。当コンサート主催の松浦教授も院生時代にお邪魔して、お話を伺ってびっくりした記憶があるとのことですが、小池レコード店主（故人）は、バーンスタインをはじめ世界の巨匠とお付き合いがあり、故小澤征爾さんも名古屋でコンサートがある際には必ずお立ち寄りになっていたそうです。どうして、そんなご縁が、この名古屋でできたのか、小池レコードゆかりの巨匠たちの音楽とともにご案内します。

日時：2025 年 3 月 29 日（土）15:00～17：00
場所：名古屋工業大学 NITech Hall
対象者：本学教職員、学生、一般（定員 300 名）
出演者情報等：2025 年 3 月 29 日の行事予定｜国立大学法人名古屋工業大学

学生の受賞

１．　The 8th International Conference on Electronic Materials and Nanotechnology for Green Environment (ENGE 2024) BEST ORAL AWARD

受賞者　：工学専攻生命・応用化学系プログラム　岡　奏利（中山将伸研究室）
受賞題目：LSTM Deep Learning Driven Battery Emulator
概　要　：ENGE は、電子材料とナノテクノロジーを対象とする国際会議です。
本研究では、少量の充放電時系列データを用い、深層学習で電池動作を再現する電池エミュレーターの実現を世界で初めて試みました。提案したデータドリブンな充放電挙動予測は精度や汎用性を向上させ、電気自動車開発の効率化を期待できるものです。
この研究成果により、2024 年 11 月 24 日～27 日に韓国済州島にて開催された同会議にて受賞しました。

２．　2024 年度磁性流体連合講演会 優秀講演賞

受賞者　：工学専攻創造工学プログラム　宗宮　隆斗(岩本悠宏研究室)
受賞題目：水ベース磁性流体を用いた自己駆動型水電解
概　要　：磁性流体研究連絡会は，4th International Conference on Magnetic Fluids が昭和 61 年（1986 年）に日本で開催されたのを機に結成され、磁性流体のみならず、磁場や電場に応答する電磁機能性流体（MR 流体や ER 流体など）に関する研究活動を推進しています。
本研究では、通常の水電解装置において水の補給や発生する気泡の排出に使用されるポンプに注目し、通常の水の代わりに磁石に引き寄せられる特性を持つ「磁性流体」を用いて、その磁気力を活用することで、ポンプを必要としない水電解システムを検証し、その有用性を示しました。
この研究成果により、2024 年 12 月 12 日（木）・13 日（金）に本学にて開催された同講演会にて受賞しました。

３．日本機械学会第 35 回バイオフロンティア講演会　バイオフロンティア若手優秀講演表彰

受賞者　：工学専攻機械工学プログラム　吉田　菜都（中村・杉田・氏原研究室）
受賞題目：電圧負荷に伴う膜損傷の SHG 光イメージング
概　要　：バイオフロンティア若手優秀講演表彰は、日本機械学会バイオフロンティア講演会において優れた講演を行った 30 歳未満の若手会員および学生を表彰するものです。
本研究では、赤血球膜の構造変化に着目し、第二高調波発生（SHG）イメージングを用いて、繰り返し電圧パルス印加による膜損傷を評価しました。その結果、繰り返し電圧パルスの印加に伴い SHG 輝度の低下が確認され、SHG 光を活用することで膜損傷を可視化できる可能性が示唆されました。
この研究成果により、2024 年 12 月 14 日（土）・15 日（日）に横浜国立大学にて開催された同講演会にて表彰を受賞しました。

その他

１．神取研究室が創成した「キメラロドプシン」を用いた遺伝子治療薬の治験が開始

概　要　：生命・応用化学類の神取秀樹研究室が創成した「キメラロドプシン」を用いた遺伝子治療薬の治験として、1 例目の患者への投与が 2025 年 2 月 6 日、慶應義塾大学病院にて実施されました。神取研究室では、分光学的手法を用いてロドプシンのメカニズムを研究する一方、様々な新機能の発見や創成も実現してきました。2011 年、2014 年には微生物ロドプシンを鋳型として動物ロドプシンの一部を導入すると、動物ロドプシンのように G タンパク質を活性化できることを京都大学大学院理学研究科との共同研究により明らかにしました。

この微生物ロドプシンと動物ロドプシンのキメラタンパク質（キメラロドプシン）に慶應義塾大学医学部の研究チームが関心を持ち、光遺伝学技術の臨床応用による失明患者の視覚再生を目指して大学発ベンチャー企業、株式会社レストアビジョン（本社：東京都港区、代表取締役：堅田侑作）を 2016 年 11 月に設立しました。

遺伝性網膜疾患の多くはいまだに予防法・治療法ともに確立されておらず、たとえば網膜色素変性症は、日本における失明原因上位の 指定難病であり、世界では数百万人規模の方が疾患に苦しんでいます。

本治療薬は視覚再生治療製剤として世界初の実用化を目指す試みであり、失明疾患に対する新たな治療法を提供する重要な一歩と位置付けられます。

２．米国セラミックス学会（ACerS）において、ACerS Global Ambassador に選出

対象者　：生命・応用化学類　岩本　雄二 教授
概　要　：米国セラミックス学会（ACerS）は 1899 年に創設された伝統ある学会で、無機材料科学および工学の分野の発展において重要な活動を担う学会の一つです。
ACerS Global Ambassador の称号は世界中のセラミック系材料の研究コミュニティに対して格別のリーダーシップを発揮した研究者を表彰するものです。
岩本教授は、ケミカルプロセスを利用した機能性セラミックスの開発研究を通じて、米国をはじめ欧州の教育・研究機関との国際共同研究を推進し、多くの研究成果を創出したことが評価され、2023/2024 年度の ACerS Global Ambassador に選出されました。